

H30年度は、利用促進に向けた課題を現場レベルで検証するとともに、荷主企業等にシベリア鉄道の利用をPRするための実証事業を複数回実施予定。

シベリア鉄道による貨物輸送に関する課題

- 輸送中の振動や温湿度の変化により貨物が損傷
- リードタイムが長く、トータル輸送時間の予測がつかない
- コスト面で海上輸送に比べ不利（トラック輸送を加味すると有利）
- 極東港湾でのトランジット手続きが煩雑
- ドライコンテナによる食料品輸送の可否確認が煩雑
- 重量物のラッシング（積付け、固縛方法）に関する手続きが不明確



実証事業一覧

	事業者	輸送品目	主な検証課題
1	三菱商事ロジスティクス株式会社	日用品	温湿度
2	東海運株式会社	住宅・ビル建設用資材	コスト・リードタイム、税関手続き、振動・温湿度
★ 3	株式会社東洋トランス	精米	コスト・リードタイム、税関手続き、振動・温湿度
4	株式会社東洋トランス	電子ピアノ、工具、電動工具	コスト・リードタイム、税関手続き、振動・温湿度、混載
5	株式会社 日新	飲料製品	食料品輸送・鉄道規則・輸送時の振動・温湿度
6	日本通運株式会社	雑貨及び食品等	税関手続き、混載
7	日立建機ロジテック株式会社	建設機械部品	コスト・リードタイム、税関手続き、振動

★：出発式対象案件